

雲南市給食センター視察レポート



実施日時 令和 7 年 7 月 8 日(火)10:30～12:30

場所 雲南市中央学校給食センター

内容・目的

雲南市の給食は地産地消率が多い時で 70%にもなっている自治体。その高い地産地消率と、木次乳業を筆頭に有機農業にも積極的な町のイメージがある。また、書籍『有機給食スタートアップブック』にも取り組みが記載されていることもあり、現地の地産地消コーディネーターの方ともお話しして、江津市の地産地消率向上と有機農産物をより導入するにあたりどのような事が必要か検討していく。

参加者の感想（一部抜粋）

給食へ農産物を導入できる生産者さんが、それなりおられること、またその生産者さんをまとめたグループが機能していること、コーディネーターさんが足を運んで運搬をされていることなど、昔から続く仕組みがしっかりと機能していることが素晴らしいと感じました。生産者の高齢化で今後どこまでかの生産グループが続くかはわからないけれど、若い農家さんや法人もあり、雲南市の土地の豊かさを感じた。以前の意見交換会でも感じましたが、地元で作る野菜があるけれど、農家さんのリスクや献立のタイミングなどが合わずに使われていないこともある様子だったので、現状でできるやり方で、まずは有機に限らずとも地元の農産物をうまいこと給食に導入できる仕組み作りを双方の無理のないところで考えるといいなと思いました。（A チーム寺井）

特に印象的だったのは、中央学校給食センターの地産地消率の高さです。その背景には、地元の生産者の存在、そして農産物の集荷・調達を担う地産地消コーディネーターの方の存在が大きな要因であると感じました。また、給食のない長期休暇中に地元産の農産物を加工し、冷凍保存して給食に活用されている取組も非常に有意義だと感じました。江津市の給食センターにおいても、こうした取組ができないか検討できたらと思いました。あわせて、地産地消率をさらに高めていくには、地元の生産者を増やすことも重要であると改めて実感しました。

（A チーム山内）